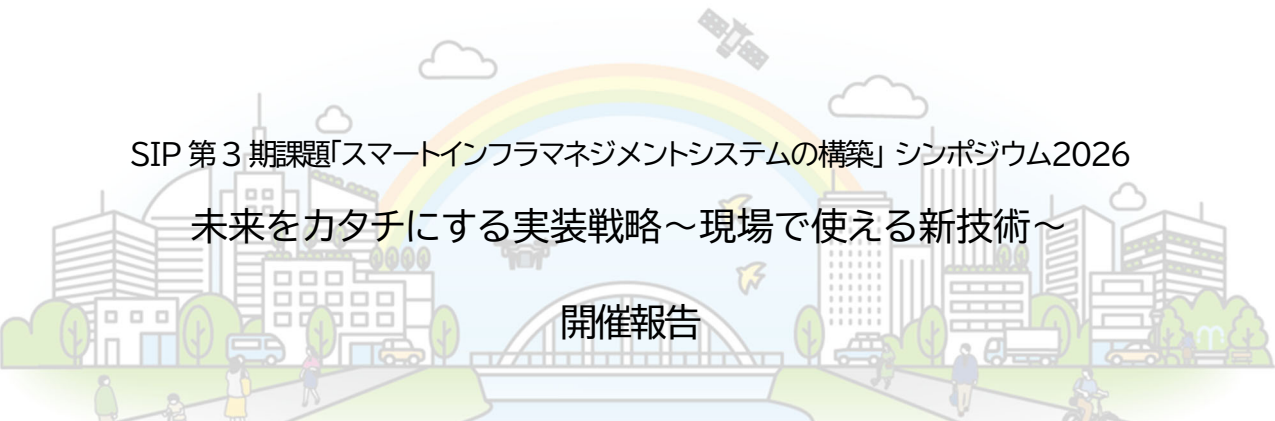




SIP 第3期課題「スマートインフラマネジメントシステムの構築」シンポジウム2026

未来をカタチにする実装戦略～現場で使える新技術～

開催報告

SIP 第3期課題「スマートインフラマネジメントシステムの構築」の研究開発成果の社会実装の加速化およびインフラ分野のイノベーションを目的として、2026年度のシンポジウムを、7月31日(金)に開催致しました。SIP 第3期の4年目となる今年度は、「未来をカタチにする実装戦略～現場で使える新技術～」をテーマに、基調講演、ポスターセッション、パネルディスカッション、パネル展示等を行いました。

平日の開催にもかかわらず、会場となった秋葉原コンベンションホールおよび、Web参加を含め、1000名を超えるご参加を賜りました。ここに厚く御礼申し上げます。

■開催概要

開催日時:令和8年7月31日(金) 10:30～18:00

場所:秋葉原コンベンションホール(JR 秋葉原駅より徒歩1分)

主催:内閣府、国立研究開発法人土木研究所

参加者:会場参加423名、Web参加613名

■開催報告目次

開会宣言 藤田光一(国立研究開発法人土木研究所 理事長).....	2
開会挨拶 南部智一(内閣府 政策参与・プログラム統括).....	2
プログラムディレクター挨拶 久田真.....	3
(東北大学大学院工学研究科 インフラ・マネジメント研究センター センター長/SIP 第3期スマートインフラ プログラムディレクター).....	3
基調講演 慶應義塾大学特任教授・浅川智恵子様.....	4
「ロボットスーツケースの研究開発と社会実装への挑戦～未来の移動支援を目指して～」.....	4
ポスターセッション(インデクシング発表、WEB 配信あり).....	5
パネルディスカッション(ホール).....	14
「制度で変わる！インフラ技術の最前線～国における新技術の社会実装～」.....	14
パネルディスカッション(5B).....	16
「現場を変える！新技術導入のススメ～地方自治体における新技術の社会実装～」.....	16
2会場のパネルディスカッションの結果の共有.....	18
グリーンインフラセッション.....	19
第一部:ウェルビーイング向上に向けたグリーンインフラ推進セミナー.....	19
第二部:パネルディスカッション.....	20
「GREEN×EXPO 2027 を経たグリーンインフラを展望する」.....	20

若手技術者ワークショップ(対面のみ)	22
タイトル:未来の働き方を、一緒に考えよう！-SIPの未来を、あなたのアイデアから-	22
閉会挨拶	23
栗野盛光 様(内閣府 プログラム統括チーム／慶應義塾大学経済学部 教授)	23
■プログラム	25

開会宣言 藤田光一(国立研究開発法人土木研究所 理事長)

研究推進法人である土木研究所の理事長・藤田光一が開会を宣言しました。SIP 第 3 期スマートインフラマネジメントシステムの構築シンポジウム 2026「未来をカタチにする実装戦略～現場で使える新技術～」の開催にあたり、参加者に向けて力強く「頑張っていきましょう」と呼びかけ、1 日を通じた活発な議論への期待を表明しました。



国立研究開発法人土木研究所 理事長 藤田光一

開会挨拶 南部智一(内閣府 政策参与・プログラム統括)

SIP を運営する内閣府政策参与・プログラム統括の南部智一がビデオメッセージで登壇しました。日本のインフラの多くが高度経済成長期に集中整備され老朽化が進む中、人手不足・予算制約・技術継承といった現場課題を挙げ、技術開発をゴールとせず現場で使われ価値を生むことの重要性を強調しました。パネルディスカッションやポスターセッション等を通じ、現場実装に向けた具体的な議論と忌憚のない意見交換への期待を述べ、実り多い 1 日となることを願って挨拶を締めくくりました。



内閣府 政策参与・プログラム統括 南部智一

プログラムディレクター挨拶 久田真

(東北大学大学院工学研究科 インフラ・マネジメント研究センター センター長／SIP 第3期スマートインフラ プログラムディレクター)

Society 5.0 実現に向け、老朽化・災害脆弱性の克服を掲げる SIP 第3期スマートインフラの全体像を説明し、建設生産プロセス(サブ課題 A)、メンテナンスサイクル効率化(サブ課題 B)、人材育成(サブ課題 C)、デジタルツイン(サブ課題 D)、グリーンインフラ・EBPM(サブ課題 E)の5サブ課題と8名の研究開発責任者を紹介しました。59の小テーマ、137研究機関、1000人超の研究者が参画し、プロジェクトは5年間のうち4年目に入ったことを報告しました。

北は北海道から南は新燃岳まで、全国各地で成果が実装され、国際展開も進みつつあると述べ、多数の参加者に謝意を表しました。また数日前に発生した熊本地震に触れ、被災地から駆けつけたパネリストへの敬意を示し、長丁場のシンポジウムへの協力を呼びかけて挨拶を締めくくりました。



SIP 第3期スマートインフラ プログラムディレクター 久田真



基調講演 慶應義塾大学特任教授・浅川智恵子様

「AI スーツケースの研究開発と社会実装への挑戦～未来の移動支援を目指して～」

浅川智恵子様（慶應義塾大学特任教授、日本科学未来館館長）に「AI スーツケースの研究開発と社会実装への挑戦～未来の移動支援を目指して～」と題して基調講演を行っていただきました。11歳での事故、14歳での失明という自身の経験とモビリティの困難に向き合ってきた歩みを振り返り、視覚障害者の自律移動を支援する AI スーツケースの開発経緯、実証実験をご紹介いただきました。また、未来の街のインフラとデジタル技術を連携させる「AIフレンドリーな街＝誰にとってもフレンドリーな街」構想を提示いただきました。最後に、実証実験に参加した8歳の児童からの「大人になったら、遠いところでも AI スーツケースと一緒に気楽に行けるようになったらいいなと思う」というコメントを紹介し、技術開発においては、それを受け入れ支える社会の実現も同様に重要だと締め括られました。



慶應義塾大学特任教授 浅川智恵子様



ポスターセッション(インデクシング発表、Web 配信あり)

ポスターセッションに先立ち、SIP の研究者およびユーザーによる、90 秒の研究紹介(インデクシング発表)が行われました。概要は、下記のとおりです。

サブ課題 A | 協調領域を活用した自動施工:「動作ができるが仕事はできない」からの脱却

永谷圭司(筑波大学)・千葉拓史(フジタ)が、土木現場で本当に使える自動施工技術を実現するため、建設会社とシステム企業の上に協調領域(情報流通インターフェース)を設定し、自動施工技術を加速する提案を紹介しました。

サブ課題 A | 人力で実施困難な箇所のロボット等による無人自動計測・施工技術開発(ダム堆砂)
向井章恵(農研機構)・小野雅人(水源地環境センター)が、水面ドローンによるダム堆砂の低コスト・遠隔計測と自動航行技術を紹介しました。

サブ課題 A | 立入困難区域における降灰後土石流の予測技術の実用化

羽田靖史(工学院大学)・山田拓様(国交省)が、火山噴火後の土石流予測を行うため、ドローンを活用した立入困難区域の火山調査技術を紹介しました。また、国交省が、この技術を活用していることについて紹介しました。

サブ課題 A | 無線電子雷管によるトンネル発破の自動化・無人化

寺戸秀和(日本建設機械施工協会)・宮本真吾(大成建設)が、トンネル発破作業を無人化するための「無線電子雷管技術」を紹介しました。



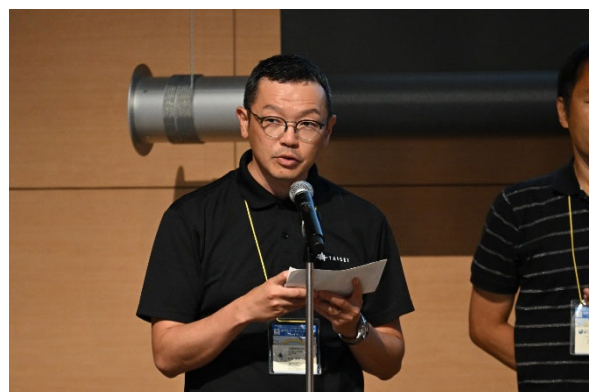
千葉拓史 永谷圭司



小野雅人 向井章恵



羽田靖史 山田拓様



宮本真吾



寺戸秀和

サブ課題 B | 道路橋の診断・評価・予測(地整・県等)

高橋佑弥(東京大学)・飯土井剛様(復建技術コンサルタント)が、点検・調査データと数値解析を組み合わせ、橋梁床版の内部劣化を可視化するとともに、余寿命や将来の劣化進展を予測するライフスパンシミュレーションを紹介しました。

サブ課題 B | 舗装の変状・予兆検知

綾部孝之(土木研究所)・梅田隼様(東亜道路工業)が、走行しながら舗装構造を診断できる移動式たわみ測定装置 MWD を紹介しました。

サブ課題 B | バサルト FRP ロッドを用いたコンクリート構造物の高耐久化と性能評価手法の開発

栗原遼大(長岡技術科学大学)・蔵治賢太郎様(首都高速道路)が、錆びず軽量のバサルト FRP ロッドによる鉄筋代替技術を紹介しました。



高橋佑弥



飯土井剛様



綾部孝之



梅田隼様



蔵治賢太郎様 栗原遼大

サブ課題 C | 市町村の道路インフラ維持管理の効率化・戦略化と人材育成

宮里心一(金沢工業大学)・北篤志様(国交省)が、北陸 11 市町村での人材育成教材・技術の共創と全国展開を紹介しました。



北篤志様 宮里心一

サブ課題 D | メンテナンスへの AI 活用

全邦釘(東京大学)・木下義昭様(玉名市役所)が、360 度撮影と AI でモデル化する「InfraWalk」による点検現場の省力化技術を紹介しました。

サブ課題 D | ドライブレコーダや住民通報システム等を活用したインフラモニタリング技術開発

前田紘弥(アーバンエクステクノロジーズ)・木下義昭様(玉名市役所)が、一般車ドラレコ等を活

用した省人的な道路モニタリング技術を紹介しました。



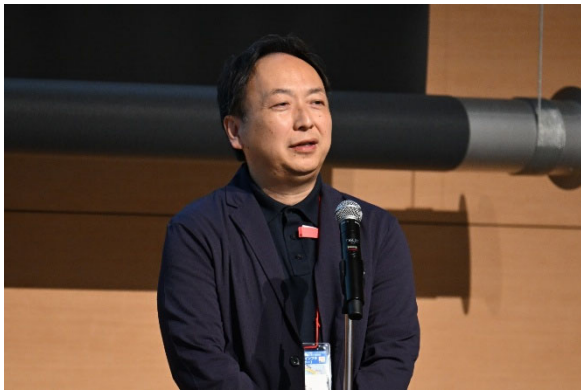
木下義昭様 全邦釘



前田紘弥 木下義昭様

サブ課題 E(e-1) | 国土・都市・地域づくりにおけるグリーンインフラ機能の最大化によるインフラの新たな価値の創出

村上暁信(筑波大学)が、グリーンインフラの評価手法の開発、認証制度の社会実装、地域実装スキーム(中間支援組織を軸とした地域展開)の研究進捗を紹介しました。



村上暁信

サブ課題 E(e-2) | EBPM 型インフラマネジメントの社会実装に向けた取組み

貝戸清之(大阪大学)・河野龍一郎様(島根県益田市)が、大阪大学サステナブル・インフラ研究センターによる恒久的な支援体制構築、劣化予測に基づく地域インフラマネジメントの取組を紹介しました。

サブ課題 E(e-2) | EBPM による橋梁群マネジメントシステムの社会実装と政策展開

丸山明(アイ・エス・エス)・藤井優様(鳥取県)が、点検・交通データ等を用いた2つのプラットフォームによるエビデンス提供、それを基にした行政の政策立案と実施について紹介しました。



貝戸清之 河野龍一郎様

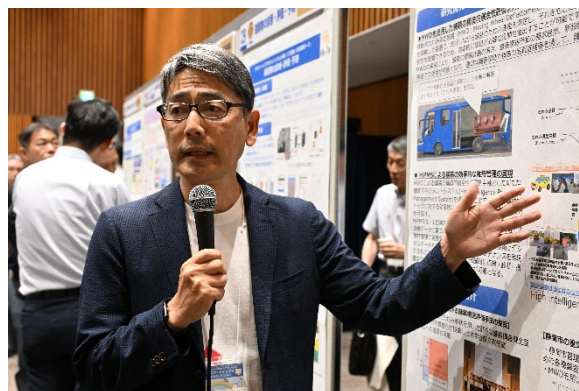


丸山明 藤井優様

ポスターセッションの時間帯には、各研究の責任者による代表ポスターの説明の様子がライブ配信されました。



サブ課題 D 前田 紘弥



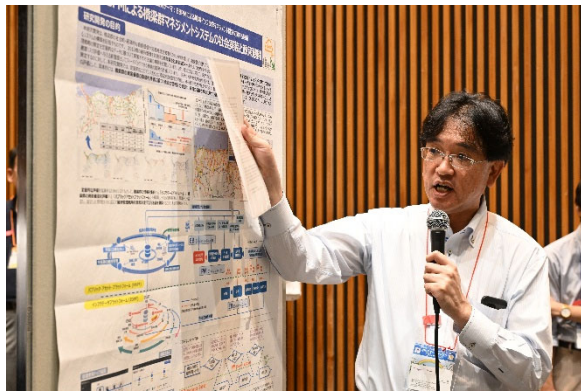
サブ課題 B 石田 哲也



サブ課題 D 本田 利器



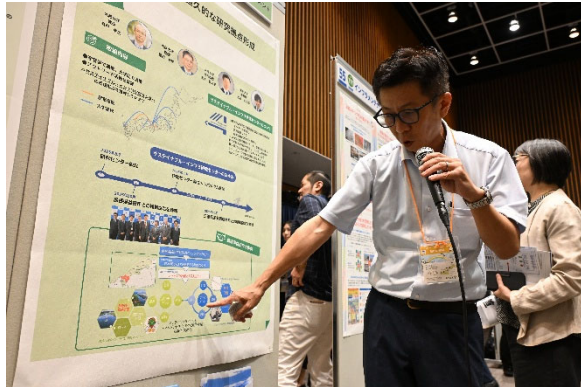
サブ課題 E(e-1) 村上 暁信



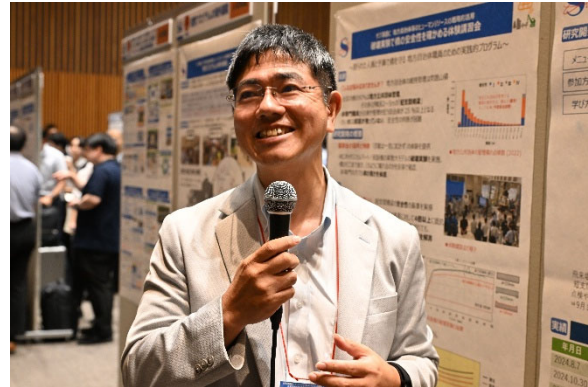
サブ課題 E(e-2)丸山明



サブ課題 E(e-2)貝戸清之



サブ課題 E(e-2) 河野龍一郎様



サブ課題 C 宮里心一



サブ課題 C 栗橋祐介



サブ課題 C 山下健太郎



サブ課題 C 木村有斗



サブ課題 C 西田孝弘



サブ課題 A 永谷 圭司



サブ課題 A 小野雅人

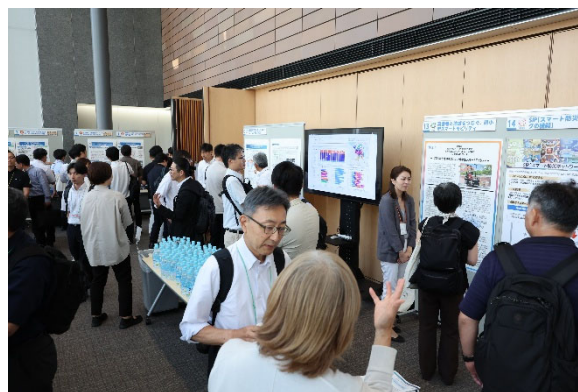
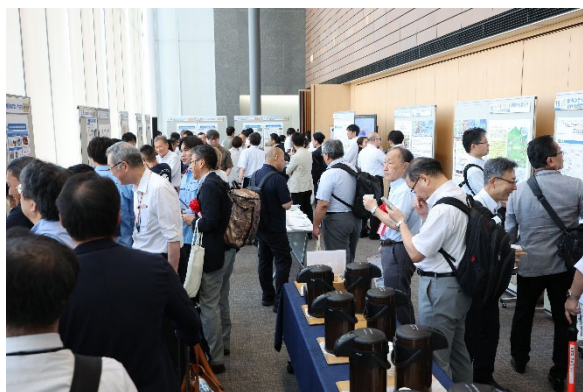


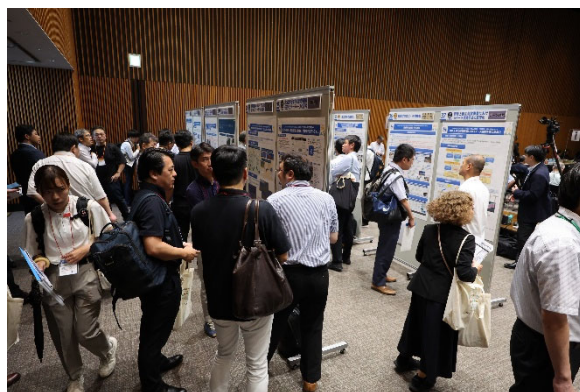
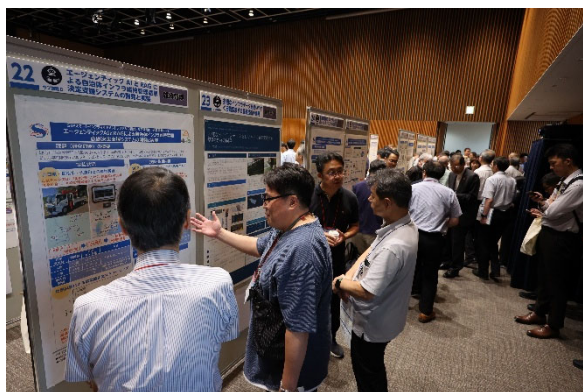
サブ課題 A 羽田靖史



サブ課題 A 寺戸秀和

ポスターセッションでは、SIP スマートインフラ課題、SIP の他の5課題、関連団体の紹介など、約70種類のポスター展示において、研究者と参加者との活発なディスカッションが行われました。





パネルディスカッション(ホール)

「制度で変わる！インフラ技術の最前線～国における新技術の社会実装～」

橋梁調査会・木村嘉富 SPD の進行で、国交省・大儀健一様、小川渉様、菊田一行様、農水省・皆川裕樹様、経産省・横山康之様が「制度で変わるインフラ技術の最前線」について議論しました(国交省・近藤弘嗣様は災害対応のため欠席)。

木村 SPD の進行で、国交省・大儀様、菊田様、関東地整・小川様、農水省・皆川様、経産省・横山様が登壇しました。

大儀様は、第6期国土交通省技術基本計画と「イノベーション・エコシステム」の考え方を紹介した上で、新技術の社会実装を妨げる「制度の壁」「公共調達の壁」に対し、基準の継続的見直しや性能規定化、新たな入札契約方式(技術提案評価型(SI型))などの施策を説明しました。小川様は、サブ課題Bで開発した移動式たわみ測定装置(MWD)を関東地整で発注して舗装点検に導入した結果、MWDは非破壊・非交通規制で相対的な弱部を発見できる技術と評価しました。

皆川様からは、サブ課題Aで開発したダム堆砂を無人で自動計測する水面ドローンについて、農水省の「国営土地改良事業等におけるBIM/CIM活用ガイドライン(案)」で紹介されていること、また施設管理者が日常点検を目的に自ら堆砂状況を計測できるよう実証試験や研修などを実施している例などが説明されました。菊田様は、サブ課題Aで開発している自動施工技術の標準化と、国交省がBRIDGEで取り組んでいる自動施工技術のシミュレータや人材育成について、連携して取り組んでいることを報告しました。

横山様は、サブ課題Eで扱っているグリーンインフラの国際展開について、経産省として取り組んでいる内容を説明しました。世界中で通用する評価基準を日本主導で確立し、海外への技術提案時の競争力の源泉とする狙いを示し、標準化が制度の壁を打破するための有用な手段の一つであると強調しました。



木村嘉富 SPD



大儀健一様



小川渉様



皆川裕樹様



菊田一行様



横山康之様



パネルディスカッション(5B)

「現場を変える！新技術導入のススメ～地方自治体における新技術の社会実装～」

北海道大学・長井宏平 PM の進行で、国交省・橋爪翔様、鳥取県・藤井優様、玉名市・木下義昭様、パシフィックコンサルタンツ・田中滋士様、JICA・須原靖博様、金沢工業大学・宮里心一が「現場を変える！ 新技術導入のススメ」について議論しました。

2050年に全国市町村の50%で人口がピーク比で50%減少するという長井PMの問題提起で開始しました。

橋爪様は、複数自治体・複数分野を束ねる「群マネジメント」を推進しており、令和7年10月に手引き(サブ課題CとEの取組を収録)を公表したと報告しました。

木下様は、サブ課題Dで開発した橋梁の点検を省力化できる技術の導入により、橋梁点検業務を約3割省力化し、3年間で約3,500万円のコスト削減が実現できたと報告しました。

藤井様は、サブ課題Eで開発したデータプラットフォームの試行運用が開始され、業務の効率化やメンテナンス効率の向上など SIP の貢献を紹介しました。

田中様は、大阪府泉州地域・奈良県宇陀地域等11のモデル地域での群マネ支援事業化の進捗を報告しました。

須原様は、人口減少に直面するアジア途上国と日本の地方自治体との課題の親和性を指摘し、SIPの開発技術のような点検・アセットマネジメント技術の海外展開が日本の「勝ち筋」になり得ると論じました。



長井宏平 PM



須原靖博様



田中滋士様



木下義昭様



藤井優様



橋爪翔様



宮里心一

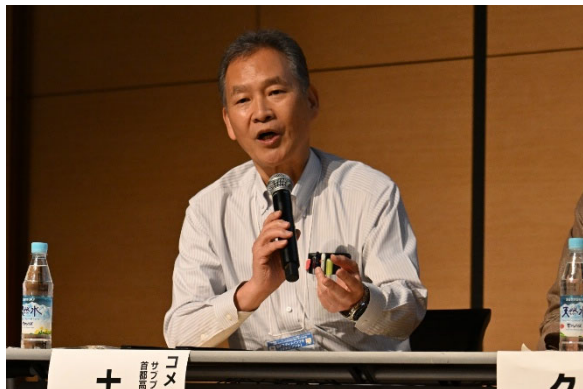


2 会場のパネルディスカッションの結果の共有

両会場のパネルディスカッション結果を、全体で共有しました。その際、各ディスカッション時に、生成 AI を活用して作成したグラレコを表示し、一目で概要を理解できる工夫を行いました。

また、参加者に対するリアルタイムアンケートで「新技術の導入に重要なこと」を聞いた結果では、「グリーンインフラ」「標準化」「人材育成」「連携」が多く挙げられ、シンポジウム内容を理解いただけたことがうかがえました。

最後の行動宣言において久田 PD は、制度の壁を突破すればインフラ分野の実装が雪崩のように加速する可能性があるとし、インフラの社会実装のガイドライン・事例集を今後まとめることを表明しました。



土橋浩 SPD



久田誠 PD



嶋崎 明寛



秋葉正一 SPD

A会場 制度で働く！インフラ技術の最前線 ～国での制度化による社会実装～

【目的・位置づけ】SPF技術の社会実装に向けて進展を加速し、制度面など策定されるべき課題を議論。国（本会場）と地方自治体（5分会場）で進行議論。

【参加者】コーディネーター：木村貴宣（建設省・SPF SPD）
パネリスト：大橋一（国土交通省）、小川（国土交通省）、久田（国土交通省）、近藤（国土交通省）、近藤（国土交通省）

【議題】SPF技術の社会実装に向けた課題と対応策、SPF技術の活用による社会実装の促進、SPF技術の活用による社会実装の促進、SPF技術の活用による社会実装の促進

【議題】SPF技術の社会実装に向けた課題と対応策、SPF技術の活用による社会実装の促進、SPF技術の活用による社会実装の促進、SPF技術の活用による社会実装の促進

B会場 現場を変える！新技術導入のススメ ～地方自治体における新技術の社会実装～

【目的・位置づけ】SPF技術の社会実装に向けた進展を加速し、制度面など策定されるべき課題を議論。国（本会場）と地方自治体（5分会場）で進行議論。

【参加者】コーディネーター：木村貴宣（建設省・SPF SPD）
パネリスト：大橋一（国土交通省）、小川（国土交通省）、久田（国土交通省）、近藤（国土交通省）、近藤（国土交通省）

【議題】SPF技術の社会実装に向けた課題と対応策、SPF技術の活用による社会実装の促進、SPF技術の活用による社会実装の促進、SPF技術の活用による社会実装の促進

【議題】SPF技術の社会実装に向けた課題と対応策、SPF技術の活用による社会実装の促進、SPF技術の活用による社会実装の促進、SPF技術の活用による社会実装の促進

誰が使える？グリーンインフラ

【目的・位置づけ】SPF技術の社会実装に向けた進展を加速し、制度面など策定されるべき課題を議論。国（本会場）と地方自治体（5分会場）で進行議論。

【参加者】コーディネーター：木村貴宣（建設省・SPF SPD）
パネリスト：大橋一（国土交通省）、小川（国土交通省）、久田（国土交通省）、近藤（国土交通省）、近藤（国土交通省）

【議題】SPF技術の社会実装に向けた課題と対応策、SPF技術の活用による社会実装の促進、SPF技術の活用による社会実装の促進、SPF技術の活用による社会実装の促進

【議題】SPF技術の社会実装に向けた課題と対応策、SPF技術の活用による社会実装の促進、SPF技術の活用による社会実装の促進、SPF技術の活用による社会実装の促進

グリーンインフラセッション

第一部:ウェルビーイング向上に向けたグリーンインフラ推進セミナー

北海道大学名誉教授・中村太士 PM の司会で「ウェルビーイング向上に向けたグリーンインフラ推進セミナー」が開催されました。

筑波大学・村上暁信は、「役立つグリーンと役立たないグリーン」があるとし、機能を発揮させる(「グリーン」を「グリーンインフラたらしめる」)ための誘導策の重要性、自治体向け手引き・行政支援ツール(PLATEAUの活用等)等、グリーンインフラをはじめるための研究開発を紹介しました。

東京大学・吉田丈人は、千葉県佐倉市での大規模アンケートの分析に基づき、自然とのつながりが主観的ウェルビーイングと最も強く関連することや、景観形成機能の満足度がほぼ全てのウェルビーイングの構成要素に正の影響を与えることを定量的に示したことを紹介しました。

国立環境研究所・西廣淳は、千葉県印旛沼流域での治水・水質浄化等の基礎研究、グリーンインフラ機能が期待できる場所の地図化(可視化)、グリーンインフラ活用の手引書の作成、それらを活用した社会実装を推進するため 2026 年 7 月に中間支援組織「ランドスケープ・マネジメント・センター」(印西市・白井市)が設立されたことを紹介しました。

自治体でグリーンインフラを導入するうえでの基本的な考え方や導入プロセス、グリーンインフラがもたらす防災・減災、環境改善、ウェルビーイング向上などの多面的な効果、地域が連携して社会実装を進めるための体制構築など、地域でグリーンインフラを推進するための実践的な知見が示されました。



中村太士 PM



村上暁信



吉田丈人



西廣淳

第二部：パネルディスカッション

「GREEN×EXPO 2027 を経たグリーンインフラを展望する」

東京農業大学・福岡孝則の進行で、国土交通省・柴田優作様、農林水産省・伊藤直樹様、環境省・辻田香織様、横浜市・大窪和人様、京都産業大学・西田貴明(SIP スマートインフラ・サブ課題 e-1 研究者)がGREEN×EXPO 2027に関連した政策、計画等を踏まえながら、グリーンインフラの果たす役割や価値を再確認するとともに、自然資本を活かした持続可能なまちづくりに向けた今後の展望について議論しました。

国土交通省・柴田様は、「グリーンインフラ推進戦略 2030」(2026.1 公表)による分野横断的な環境整備や、グリーンインフラ官民連携プラットフォーム(GREEN×EXPO 2027 分科会)でのグリーンインフラ認知度向上に向けた企画の検討状況を紹介しました。

農林水産省・伊藤様は、「みどり加速化 GX プラン」(2026.6 公表)による環境を切り口とした農業活性化や、GREEN×EXPO 2027 で伝える「自然とともに生きる中で生まれた知恵と文化」や「持続可能性と生産性向上の両立」の概要について紹介しました。

環境省・辻田様は、保護地域以外で生物多様性保全に資する地域を認定する「自然共生サイト」や、自治体・企業・住民等が連携し自然の恵みを活かした社会課題の解決や魅力的な地域づくりを進めるための「自然を活用した解決策(NbS)の手引き」(2026.7 公表)について紹介しました。

横浜市・大窪様は、GREEN×EXPO 2027 会場基盤となる(仮称)旧上瀬谷通信施設公園(公園面積約 65ha)の整備状況や、グリーンインフラ整備として樹林地の保全再生、河川の原風景の再生、微地形を活用して雨水を浸透させる「バイオスウェル」等の具体例を紹介しました。

京都産業大学・西田(SIP スマートインフラ・サブ課題 e-1 研究者)は、グリーンインフラの認証制度(自治体・プロジェクト単位)やアプリによるグリーンインフラの見える化等、研究開発の進捗状況やGREEN×EXPO 2027 での情報発信や社会実装への展開について紹介しました。

GREEN×EXPO 2027 を通じて、気候変動、生物多様性の損失、都市のヒートアイランド現象、人口減少社会といった複合的課題に対処するため、多様なステークホルダーが連携し、自然が持つ様々な機能を活用することで都市や地域の課題を解決する必要性が共有されました。



福岡孝則



柴田優作様



伊藤直樹様



辻田香織様



大窪和人様



西田貴明

若手技術者ワークショップ(対面のみ)

タイトル:未来の働き方を、一緒に考えよう！-SIPの未来を、あなたのアイデアから-

若手技術者ワークショップでは、未来の建設分野における働き方を考えるワークショップが行われ、活発な議論と若者が考える未来像の発表が行われました。

本ワークショップには、大学などの研究機関、ゼネコン、建設コンサルタントなど、幅広い分野から20～30代の若手技術者18名が参加しました。司会進行およびファシリテーターはIn.F(インフラファーマーズ)が務めました。

ワークショップでは、「新設(建設)」「維持管理」「災害対応・復旧」の3つの視点を設定し、現在の土木分野における業務や課題を踏まえながら、SIPが描く未来像を共有しました。その上で、未来の仕事と働き方や「みんながワクワクするにはどんな未来像が良いか」といったテーマについて、活発かつ深い議論が展開されました。

発表の最後に、久田PDへのフィードバックも行われ、若手同士の対話を通じて理想の業界像を言語化するとともに、共通の問題意識と志を持つ仲間とのつながりを深め、インフラ業界の変革に向けた具体的な行動を生み出す契機となりました。



閉会挨拶

栗野盛光(内閣府 プログラム統括チーム／慶應義塾大学経済学部 教授)

内閣府プログラム統括チーム・栗野盛光(慶應義塾大学経済学部教授)が閉会挨拶を行いました。熊本地震の犠牲者に哀悼の意を示し、被災者へのお見舞いと復旧復興への祈念を述べました。自身が土木工学出身で経済学に転じた経歴に触れ、インフラは公共財であるため制度化が不可欠だと指摘しました。

社会実装ワーキンググループが整備した技術・制度・事業・社会受容性・人材の 5 つの社会実装指標「XRL」の活用を呼びかけ、データ連携ワーキンググループとの協力も要請し、参加者の活躍と SIP 全体の発展を祈念して締めくくりました。



内閣府 プログラム統括チーム 栗野盛光





■プログラム

<ホワイエ&ホール>

○10:00～ パネル展示

<ホール>

10:30～ 若手技術者ワークショップ(対面のみ)

タイトル:未来の働き方を、一緒に考えよう！-SIPの未来を、あなたのアイデアから-

<5 階会場>

11:00～ グリーンインフラセッション

第一部:11:00～11:40

ウェルビーイング向上に向けたグリーンインフラ推進セミナー

司会 北海道大学・名誉教授 中村 太士

「グリーンインフラをはじめてみよう」	筑波大学システム情報系・教授	村上 暁信
「ウェルビーイングが増すグリーンインフラとは」	東京大学大学院農学生命科学研究科・教授	吉田 丈人
「グリーンインフラ地域実装の工夫」	国立環境研究所気候変動適応センター・副センター長	西廣 淳

第二部:11:40～12:40

パネルディスカッション「GREEN×EXPO 2027 を経たグリーンインフラを展望する」

モデレーター 東京農業大学地域環境科学部・教授 福岡 孝則

パネリスト

京都産業大学生命科学部・教授	西田 貴明
国土交通省総合政策局環境政策課 ・課長補佐	柴田 優作様
農林水産省大臣官房みどりの食料システム戦略グループ・課長補佐	伊藤 直樹様
環境省自然環境局自然環境計画課 ・課長補佐(総括)	辻田 香織様
横浜市脱炭素・GREEN×EXPO上瀬谷整備事務所公園整備担当・部長	大窪 和人様

<ホール>

13:00～ 開会挨拶 内閣府政策参与・プログラム統括 南部 智一

13:05～ プログラムディレクター挨拶

13:15～ 基調講演

ロボットスーツケースの研究 開発と社会実装への挑戦 — 未来の移動支援を目指して —	慶應義塾大学 理工学研究科 特任教授 ／日本科学未来館 館長	浅川 智恵子様
--	-----------------------------------	---------

14:10～ ポスターセッション(インデクシング発表、Web 配信あり)

サブ課題A		
協調領域を活用した自動施工:「動作ができるが仕事はできない」からの脱却	筑波大学 システム情報系 情報工学域 教授	永谷 圭司
	株式会社フジタ 技術センター DX推進研究部 部長	千葉 拓史様
人力で実施困難な箇所のロボット等による無人自動計測・施工技術開発(ダム堆砂)	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究部門 水利工学研究領域 水災害減災グループ グループ長	向井 章恵
	一般財団法人水源地環境センター 研究第二部 部長	小野 雅人様
立入困難区域における降灰後土石流の予測技術の実用化	工学院大学 機械システム工学科 准教授	羽田 靖史
	国土交通省 砂防部 砂防計画課 地震・火山砂防室 課長補佐	山田 拓様
無線電子雷管によるトンネル発破の自動化・無人化	一般社団法人日本建設機械施工協会 施工技術総合研究所 研究第一部 次長	寺戸 秀和
	大成建設株式会社 土木本部土木技術部トンネル技術室 課長	宮本 真吾様
サブ課題B		
道路橋の診断・評価・予測(地整・県等)	東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻 コンクリート研究室 准教授	高橋 佑弥
	株式会社 復建技術コンサルタント 構造技術部	飯土井 剛様
舗装の変状・予兆検知	国立研究開発法人土木研究所 道路技術研究グループ(舗装)	綾部 孝之
	東亜道路工業株式会社 技術研究所 第3研究室 主任研究員	梅田 隼様
バサルト FRP ロッドを用いたコンクリート構造物の高耐久化と性能評価手法の開発	長岡技術科学大学 技学研究院 環境社会基盤系 コンクリート研究室 准教授	栗原 遼大
	首都高速道路(株) 海外・社会インフラ事業部 技術主幹	蔵治 賢太郎様
サブ課題C		
市町村の道路インフラ維持管理の効率化・戦略化と人材育成	金沢工業大学	宮里 心一
	国土交通省 総合政策局 社会資本整備政策課	北 篤志様
サブ課題D		
メンテナンスへの AI 活用	東京大学	全 邦釘

	玉名市役所	木下 義昭様
ドライブレコーダや住民通報システム等を活用したインフラモニタリング技術開発	アーバンエックステクノロジーズ	前田 紘弥
	玉名市役所	木下 義昭様
サブ課題E		
国土・都市・地域づくりにおけるグリーンインフラ機能の最大化によるインフラの新たな価値の創出	筑波大	村上 暁信
EBPM 型インフラマネジメントの社会実装に向けた取り組み	大阪大学	貝戸 清之
	益田市	河野 龍一郎様
EBPM による橋梁群マネジメントシステムの社会実装と政策展開	株式会社アイ・エス・エス	丸山 明
	鳥取県西部総合事務所日野振興センター 日野県土整備局局長	藤井 優様

後半 90 分は、ポスター出展者と参加者の質疑応答を行った。

代表ポスターについては Web 参加者に向けて、研究の責任者 8 名から説明を行い、Web 参加の方にもポスターセッションに参加いただいた。

サブ課題D	株式会社アーバンエックステクノロジーズ 代表取締役	前田 紘弥
サブ課題B	東京大学大学院 大学院工学系研究科 教授	石田 哲也
サブ課題D	東京大学大学院 新領域創成科学研究科 教授	本田 利器
サブ課題E(e-1)	筑波大学 システム情報系 教授	村上 暁信
サブ課題 E(e-2)	株式会社アイ・エス・エス	丸山 明
サブ課題 E(e-2)	大阪大学 大学院工学研究科 教授	貝戸 清之
サブ課題 C	金沢工業大学 工学部 学長補佐・教授	宮里 心一
サブ課題 A	筑波大学システム情報系 教授	永谷 圭司

16:20～ 2 会場パラレルパネルディスカッション

16:20～17:30 パネルディスカッション(ホール)

「制度で変わる！インフラ技術の最前線 ～国における新技術の社会実装～」

コーディネーター：サブプログラムディレクター 橋梁調査会 専務理事 木村 嘉富

パネリスト

国土交通省大臣官房技術調査課・建設技術政策分析官	大儀 健一様
国土交通省関東地方整備局 関東道路メンテナンスセンター・センター長	小川 渉様

国土交通省 大臣官房 技術調査課 参事官(イノベーション)グループ 施工自動化企画官	菊田 一行様
経済産業省 イノベーション・環境局 国際電気標準課・課長補佐	横山 康之様
農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究統括官(生産技術)室 研究専門官(農村担当)	皆川 裕樹様
国土交通本省 道路局 国道・技術課・道路技術調整官	近藤 弘嗣様

16:20～17:30 パネルディスカッション(5B)

「現場を変える！新技術導入のススメ～地方自治体における新技術の社会実装～」

コーディネーター(5B):プロジェクトマネージャー 北海道大学 大学院 工学研究院 教授 長井 宏平

国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課・アセットマネジメント企画調整官	橋爪 翔様
鳥取県西部総合事務所日野振興センター日野県土整備局・局長	藤井 優様
玉名市役所建設部土木課課長補佐(橋梁メンテナンス係長兼務)	木下 義昭様
パシフィックコンサルタンツ株式会社 大阪本社 交通基盤事業部 インフラマネジメント室・室長	田中 滋士様
独立行政法人国際協力機構社会基盤部運輸交通 G 第一 T	須原 靖博様
サブ課題 C 研究開発責任者/金沢工業大学工学部 学長補佐・教授	宮里 心一

17:40～17:55 2 会場のパネルディスカッションの結果の共有

コメンテーター

プログラムディレクター／東北大学大学院 工学研究科 インフラ・マネジメント研究センター センター長	久田 真
サブプログラムディレクター／首都高速道路技術センター 副理事長	土橋 浩
内閣府科学技術・イノベーション推進事務局・参事官(重要課題担当)	嶋崎 明寛
サブプログラムディレクター／日本大学生産工学部・教授	秋葉 正一

17:55～ 閉会挨拶(内閣府 プログラム統括チーム 慶應義塾大学経済学部教授 栗野 盛光)